



2018年度は公立小学校2校で会として初めて年間を通しての伝統芸能・伝統文化教育に関わることが出来、充実した普及活動を行うことが出来ました。本年度も日本文化の魅力を伝え、楽しむ人を増やす活動を行って参ります。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



監修・総舞踊振付

志田房子(琉球舞踊重踊流宗家/国指定重要無形文化財 琉球舞踊<総合認定>保持者)

振付・選曲

志田房子(琉球舞踊) 田銀子(韓国舞踊) 西川祐子(日本舞踊) 富燦霞(中国舞踊)

出演

西川祐子	藤間大智	藤間加賀美	(日本舞踊)
志田真木	波照間永子	前田恵	(琉球舞踊)
金ヒヨン	朴素希	鄭世永	(韓国舞踊)
曾照薫	富燦霞	蔡美鈴	(中国舞踊)

構成原案

波照間永子



写真

日本舞踊「雪」
琉球舞踊「月」
韓国舞踊「風」
中国舞踊「花」
総踊り より
受講生の感想は p.2
をご参照ください

7. お知らせ

当会理事の先生方がご出演なさるそれぞれの芸能について紹介する動画が作成されています。現在、日本舞踊(西川扇藏:人間国宝, 西川祐子:当会理事)、地唄舞(神崎貴加江:神崎流家元 当会会員)の2本がむすびの会HPより公開中です。今年度中に、能(桜間金記)、狂言(山本東次郎:人間国宝)、能楽囃子(大倉源次郎:人間国宝 当会理事)、文楽(義太夫 竹本津駒太夫・鶴澤寛太郎 人形 吉田勘彌:当会理事)の動画も公開予定です。英語版も作成されています。どうぞご覧くださいませ!

<http://www.musubinokai.org> で検索ください

むすびの会の活動は、facebookでも随時公開しております。

発行 2019年3月 特定非営利活動法人 日本伝統芸能教育普及協会 むすびの会
〒145-0071 東京都大田区田園調布 1-12-14-207 <http://www.musubinokai.org>

きょう いく

研究から共創、そして「教/共育」へ

明治大学公開授業 国際交流(世界のキャンパスから)の試み

波照間永子

明治大学准教授
むすびの会 副理事長



むすびの会協力 韓中琉日合同舞踊作品&研究発表
(後列左から2人目波照間先生)

明治大学情報コミュニケーション学部では、2018年度の秋学期より、学部の特色ある授業として「国際交流(世界のキャンパスから)」をスタートした。この授業は、各回ごとに、世界各地で活躍する研究者を招き、本学の教員とのコラボレーション授業を展開している。今回(2019年1月15日)は、韓国の成均館大学から朴暖映教授を、国立台湾芸術大学から曾照薫准教授をお招きし、韓国・中国・琉球・日本の4地域の舞踊における「扇」による身体表現の魅力を、学部生に向けわかりやすく紹介するよう努めた。

なおこの授業は2つのキャンパスで、約400人の学生が受講しており、授業を実施したキャンパスからもう一つのキャンパスに映像を中継した。

授業の内容

「東アジアの舞踊における『扇』と身体」というテーマで、二部構成による授業を実施し、第一部では、講義と実演を通して報告を行った。その後、第一部の研究成果を踏まえた共同制作作品『雪月風花 2019』(志田房子氏監修)を披露した。

受講生の考察から

現代社会の諸課題に関心を寄せる情報コミュニケーション学部の学生に対して「伝統舞踊の研究を基軸とした東アジアの身体表現」を提示し、どのように受け止められるのか不安であったが、リアクションペーパーには限られた紙面いっぱい意欲的かつ新鮮な考察が多く、出演者ともども励まされた。

共創の過程で価値観の違いや意志を伝える難しさを感じ、時折、心が折れそうになることもあったが、このプロジェクトを継続する力を受講生の考察から得ることができた。共同研究から共同制作「共創」にいたるなかで構築した国際的な絆を、授業を通して伝える「教(き)育(よ)共(う)育(いく)」の意義と使命を痛感した。以下に、受講生の考察の一端を紹介し、本稿のまとめとしたい。

踊りがシンクロしたりまたはバラバラになったり、またそれと同じように曲も激しくなったりと、抑揚があつてとても面白かった。また最後にそれぞれの国が集まったところは調和がみてとれたし華やかだった。日本、韓国、中国は政治において良い関係とはいえないが、こうした3国が調和した部分をみると、文化は繋がっているのだと感じられるとても良い機会になった。(法学部 3年)

3つの国の舞踊を融合させた舞台上、各舞踊の良さや美しさが最大限に活かされていると感じた。上品で優雅な日本舞踊、沖縄特有の音楽と調和する琉球舞踊、華やかで力強い韓国舞踊、日本とは異なる上品さとしなやかさをもつ中国舞踊。どれも大変美しく、感動しました。最後の4つの舞踊の融合は、それぞれの特徴が上手く絡み合っていて、最後まで目が話せませんでした。(政経学部 2年)

それぞれの国が影響しあい作り上げた文化はもちろん相違点がありますが、共通点も多くて、こうして1つの舞台上で4つの舞踊をみると、言葉も国も違うけれど昔から関係しあってきた国同士の絆を感じました。本当に素敵でした。(文学部 2年)

4地域の舞踊が最後合わさったとき、鳥肌が立った。それぞれの良さを活かして、一つの作品を作り出すという発想に驚いた。(情コミ学部 3年)

「雪月風花」を見て、4つの地域それぞれの舞踊の違いや、表される様々な雅やかさが感じられた。4つの舞踊の移り変わりが、豊かな自然の移り変わりを表しているように感じられ、それらが移り変わりがら除々に混ざり合い、最後に一体となって織りなす舞の様は、この世の自然の美しさを豪華かつきらびやか、雅やかに写し出しているようであった。(情コミ学部 3年)

「雪月風花 2019」を鑑賞して、「静」と「動」の融合のように感じました。琉球と日本の舞踊の「静的」な動き、韓国と中国の「動的」な動きがまさにそれぞれの国の特徴が感じられた舞台でありました。舞台が始まる前に説明された通り4つの国が国境を隔ててもまさに国境などないような統一感を感じました。(情コミ学部 3年)

文化背景の全く異なる4地域が舞踊を通して1つのものをつくりあげていることがすごいと思った。今まで見たことの無いパフォーマンスで心に響きました。特に、後半の全員が上がって、それぞれを引き立てあう姿は印象的でした。このような素晴らしいものを授業で見られたことが、良かったです。新しい感性を刺激された気がします。(情コミ学部 2年)

6. 授業協力

明治大学 情報コミュニケーション学部

国際交流(世界のキャンパスから) 第13回(公開講座)実施報告

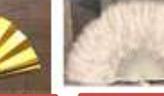
「東アジアの舞踊における「扇」と身体—中国・韓国・琉球・日本の舞踊をめぐる—」

2019年1月15日 駿河台キャンパスリパティホール (履修者400名)

授業内容

第一部 講義と実演

日本・琉球・韓国・中国の4地域の舞踊を対象に、①扇の種類と形状、②扇の持ち方(動作特性)、③象徴性についてそれぞれの報告者が解説を行った。写真・図表、実演を用いることより受講生の関心を高め理解を促すようにした。例えば①扇の種類と形状ではスライドを示し、第二部の共同制作作品で使用する扇の形状について紹介し、東アジアの扇の多様性を示した。

扇子の大きさ・構造			
日本舞踊	韓国舞踊	琉球舞踊	中国舞踊
骨 10本	骨 18本	骨 10本	骨 28本
			
150度 29~31cm	170~180度 40cm	150度 29~31cm	180度 30cm

報告者
森田ゆい (日本舞踊)
波照間永子 (琉球舞踊)
朴暖映 (韓国舞踊)
富燦霞 (中国舞踊)

扇の形状(波照間 報告スライドより)

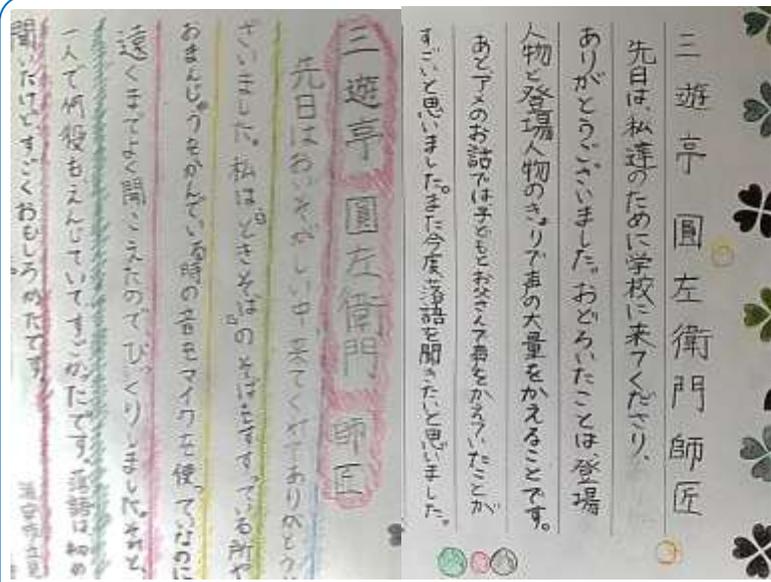
第二部 共同制作作品『雪月風花 2019』

第一部にて紹介した比較研究を踏まえた共同制作作品『雪月風花 2019』を公開した。本作品の前提となる作品『雪月風花』は、2018年2月に、琉球・韓国・日本の3地域の合同作品として発表し好評を得た。今回、中国舞踊を加え東アジアの4地域によるコラボレーションを試みた。



講義の様子

- 「雪」日本舞踊 寒さへの清浄さや恋慕の情を表現
- 「月」琉球舞踊 「離れていても見る月は同じ。心はつながっている」という距離を越えた情愛の心持ちを表現
- 「風」韓国舞踊 韓国語の(パラム)には、文字通りの自然「風」に加えて「希望・願い」という意味も含まれていることを踏まえて表現
- 「花」中国舞踊 中国文人は古くから花を愛し、様々な花に人格を付与し擬人化さらに花全般は女性の代名詞でもあることを踏まえて表現



保護者より

本物の落語を聴くのは初めてで、子ども達と楽しい時間を共有できて良かったです。現在は便利過ぎてリモコンで電源を入れれば、テレビもゲームもインターネットも出来て視覚も聴覚も受動的に満たされてしまいます。落語は落語家の方の話方、身振りによって想像力がふくらみ、脳が豊かになり、

便利過ぎる現代を生きる私たちにはなくてはならない能力を遺してくれる芸術とも思いました。子どもたちは国語の授業を通じ、今回の体験が出来てとても幸せなことと思いました。

活動報告

1. 通常総会 (参加者 16名)

2018.6.17(日) 13:00~13:40 明治大学駿河台キャンパスグローバルフロア 17F 第16回通常総会が行われました。詳細は議事録(昨年発送)の通りです。

2. 講座・研究会主催 (参加者 41名)

2018.6.17(日) 13:45~16:00 明治大学駿河台キャンパスグローバルフロント 17F 共催：明治大学研究知財戦略機構アジア太平洋パフォーミング・アーツ研究所<RIAPPA>

「グローバル時代に学ぶ着物講座 伝統文化講座パートⅣ」

宮本恵美子(着付講師 元着付け学院校長)



事務局より

立派なお着物と共に宮本先生の奥深い職人技術のお話などを伺い、正に眼福。改めて着物を通して和 문화への興味を刺激する素敵な講座となりました。

「学校での日本舞踊の指導 研究会」※報告がHPに掲載されております

西川 祐子(川村学園女子大学・川村中学校非常勤講師、

大妻中学校・高等学校日本舞踊部コーチ)

藤間加賀美(九段生涯学習館講師)

藤間 大智(栃木県立足利南高等学校非常勤講師、

東京都立山吹高等学校日本舞踊外部顧問)

藤間 多京(横浜市立荏田西小学校和風クラブ日本舞踊外部講師)

事務局より

先生方から学校ならではの指導の工夫のお話の後で、参加者からの非常に活発な意見交換が行われました。若い方からの「ネット上での情報が少なすぎる」という意見が印象的でした。

5. 会員対象企画

1) 茶の湯サロン パートⅣ 年4回 (参加者4回合計29名)

テーマ：利休のわび茶に至るまで / 茶花を活けてみよう

/ お抹茶に親しもう 利き茶 / 秋から冬の菓子

講師：中澤宗寿(表千家茶道講師) 大田区内中澤先生ご自宅茶室



参加者より

今年度より講義的な要素が加わり、毎回楽しくお勉強&おいしいお菓子と抹茶を頂いています。茶道は総合芸術と言われるように奥深いですが、中澤先生の解説が分かりやすいので、茶道初心者でも楽しめます。

新メンバー大歓迎です！

是非お気軽にご参加くださいませ。

参加費：会 員 1回5千円

ビジター 1回6千円



3. 研究・調査・研修事業

年間を通して授業に関わらせて頂いた内容です。ここでの活動の詳細については2019年度の研究会にて報告させていただきます。

1) 大田区立松仙小学校 4年生1組、3組 総合的な学習の時間

1組テーマ「お茶」(34名) 講師：中澤宗寿(茶道教師)

お茶の種類、歴史、製造法などと共に「茶道」についても調べ学習を進めました。最後の発表では保護者様を教室に招き、子ども達が抹茶を点ててもてなしました。



事務局より

一年間の集大成として各班で調べたテーマの発表、更に、茶道というものが沢山の要素から成り立つことを理解した上で、一番大切なのは形式ではなく、相手をもてなす心。もてなしの心をどのように表現するのが大切であるとの学びを活かした最終回でのお母様方、お友達へのもてなしの振る舞いが大変立派で感激させられました。

3組テーマ「伝統芸能」(35名) 講師：森田ゆい(むすびの会)概論担当

狩野了一(能楽 喜多流シテ方)、山本則秀(能楽 大蔵流狂言方)

藤間大智(歌舞伎舞踊 藤間流)、望月実加子(長唄囃子方 鳴り物)



7) 民族芸能、日本舞踊の指導

2018.11.26,12.21,2019.1.28 山梨大学 「生活と健康Ⅱ」「体育科内容論」

受講者(40名, 30名)

講師：近藤洋子(民俗芸能指導者)、藤間加賀美(日本舞踊 藤間流師範)



担当教員より

大変素晴らしい内容で、学生たちにとっても良い学びとなりました。

助手の中永先生の迫力のある山伏神楽を拝見することもできました。



担当教員より

学生ともども良い体験でした。感動いたしております。たった1時間のご指導で学生は見違えるほどに変わりました。本物に触れる事、人物と出会うことの意味深さを実感致しました。

8) 落語

2019.1.24 浦安市立見明川小学校 4年生(83名、保護者10名)

講師：三遊亭円左衛門

(真打)

担当教員より

落語の面白さ奥深さを子ども達全員が味わうことができました！



5) 日本舞踊ってむずかしいの？

2018.9.15 横浜市立市ヶ尾中学校 希望者(10名) 講師：藤間多京(藤間流師範)
手伝い：藤間卯京、藤間京綾、藤間京泉



生徒さんからの感想

私は、この講座に参加するまで、日本舞踊をおこなったことがなく、上手くできるのが不安でしたが、先生方からの優しいアドバイスをうけ、自分なりに上手く踊ることができ、良かったです。また、私は吹奏楽部でパーカッションパートに所属しているので

すが、今回見せて下さった鈴とまったく同じものを使って演奏したことがあったので、とてもおどろきました。そのような意外な共通点を見つけることができたのも、とても楽しかったので、もっと日本舞踊について深く知りたいと思いました。今回の講座で日本舞踊の楽しさ、美しさを知ることができたので、またいつか機会があればやってみたいと思います。(2年女子)

6) 日韓交流イベント(明治大学情報コミュニケーション学部と韓国成均館大学芸術学部の交流会) 地唄舞指導、着付けサポート

2018.11.15~12.15 明治大学情報コミュニケーション学部 波照間研究室

着付け：宮本恵美子(着付け講師) 地唄舞指導：神崎貴乃介



事務局より

パフォーマンスを交換し、交流する企画。日本的な表現として着物を着て舞う、琉球舞踊を踊るシーンが発表されました。交流は大成功でした!



2) 調布大塚小学校 オリンピック・パラリンピック教育

女流義太夫体験、文化庁 文化芸術による子供の育成事業~芸術家の派遣事業~
2018.12.11~18全3回 全学年(308名)

講師：鶴澤賀寿(太夫)・竹本京之助(三味線) 一般社団法人義大夫協会より



生徒の声より

「久しぶりに大きな声を出した」「自分はこんなに大きな声ができるのかと認識した」「物語の内容や歴史的背景をもっと知りたくなった」「映像資料を見たことでイメージがしっかりついて、語りの役に入り易くなった。自分が思い描いていた人物と全然違った」「これからの音読の授業で活かせる」「卒業式などで大きな声を出すのに役立つ」「三味線の音で、人間の感情を表現できることに驚いた」「声を出し切ることを目標に頑張った。今回の授業で何事もやり切ろうという気持ちがめばえた」

今回は、3回にわたって教えていただきありがとうございます。声の出し方(しゃみせん)のすきなメロディーを聞いて勉強になりました。く返す二回目のはず。つぎはあさんしゃみせんのおがいの人の泣き声。わかい男の人の泣き声の音の出し方がわかって本当に近くで泣いている声みたいでおどろきました。

私は竹本京之助さんのおしゃべりしたお義太夫はケチがきらいなという言葉が心に残りました。なせなら、声を出さうことを私は目標にしていたので、つながらずではないかと思ったからです。今回の授業で何事もやり切ろうという気持ちでめばえたよつになりました。本当に良い一日になりました。ありがとうございます。

調布大塚小学校 4年 2組

教員からの声(6年生担任)「物語の内容を分かっている子供は半分ぐらいたが、それ以上に純粋に声を出せることを楽しんでいる様子。児童はみんな積極的に参加している。床本に出てくる言葉の意味が難しいので、解説が書いてあるとよりいいのではないかなと思う。」

6年生国語「伝えられて来たもの」(光村図書教科書に文章が掲載されている山本東次郎先生ご本人による伝統について学ぶ授業)
2019.2.19 6年生(46名) 講師：山本東次郎(能楽 大蔵流狂言方/人間国宝)



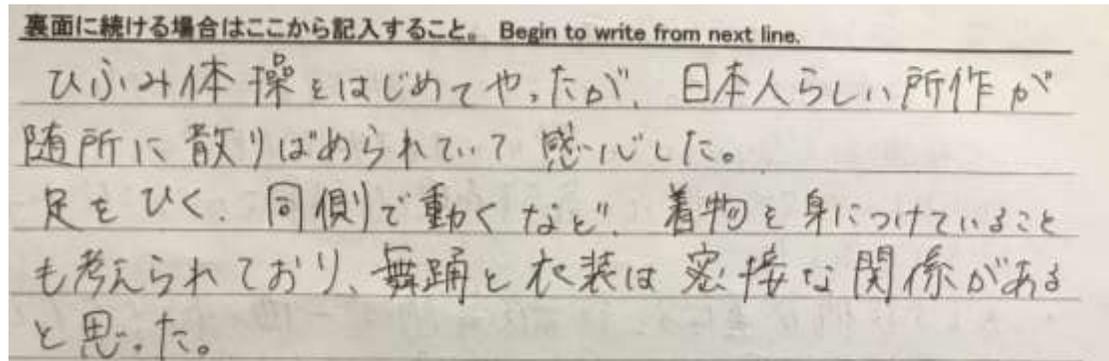
生徒の感想より

「私は山本先生の礼儀についての話に驚きました。話の初めの方では簡潔な言葉だけで言って線をお客さんに作ってもらうのは礼儀だと聞いた時「線をつくらせている」から逆に失礼なのではないかと思いました。しかし、話の後半では、線をつくらせることで自由度を高めることが大切だと分かりました。預り物である曲を線に見せることが身についている人は、普通に話す場面でも線を見せられるのだと感動しました。」

4. 指導者紹介支援事業

1) 日本舞踊体験（ひふみ体操の指導）

2018.6.6 明治大学「身体表現論」受講者（40名） 講師：神崎貴乃介（神崎流師範）



2) わくわく歌舞伎体験 伝統芸能コトハジメ

地元の子供歌舞伎啓蒙を目的とした地域小学校での歌舞伎体験

2018.6.20 足利市立葉鹿小学校 6年生（60名） 講師：藤間大智（藤間流師範）



3) 日本舞踊体験

2018.7.15 足利市葉鹿自治会館

ベトナムからの高校生留学生（35名）

講師：西川祐子（西川流師範）

事務局より

ベトナムトレーニングセンターと呼ばれる私塾のような団体から学生の旅行を通じて勉強以外の自立心やコミュニケーションを養う目的の旅の一貫で日本舞踊の体験指導を行いました。



4) 演劇Ⅱ（歌舞伎）授業

2018.4.~2019.1.19 栃木県立足利南高等学校 歌舞伎講座履修者（8名）

講師：藤間大智（藤間流師範）



生徒の感想より

「日本舞踊・歌舞伎の学習を通して広く日本文化、伝統文化に興味と関心を持つようになった」「専門的内容のみでなく、専門家から実技指導を受けられ舞台公演まで実施している点が素晴らしい」「精神的、人間的に成長することが出来た」